

# 令和3年度救護施設旭寮事業報告書

法人理念及び基本方針に従い、救護施設旭寮の事業を下記のとおり行った。

## 1 運営及び設備

- (1) 施設運営及び利用者への福祉サービスの質の向上を図るため、関係機関及び団体等の研修会に可能なかぎり出席して資質の向上に努めた。その場合、新型コロナウイルス感染対策を考慮したリモート等での研修を選択した。
- (2) 職員研修会を行い職員の資質及び福祉サービス提供の向上に努めた。また職員会議を定期的に行った。
- (3) 施設に対する理解と認識を高めるため、地元地域への会報の回覧、地域社会に施設機能等を開放したほか、その他あらゆる機会を通じ啓蒙宣伝に努め、地域との交流を積極的に行った。
- (4) 施設の規律秩序の維持と組織の一体性を欠かさないように職員連絡会議を行うと共に連絡を密にするため利用者職員全体の朝礼を行った。
- (5) 各種委員会を機能させ、また、ケース担当のチーム化を図り、よりきめの細かい支援、サービスを目指した。
- (6) 第三者評価を受審した評価結果を参考に提供サービスの向上に努めた。
- (7) ゆめのは居室の定員を4名とし下記の受け入れを可能な限り行った。
  - ①福祉事務所等からの緊急一時保護並びに生活困窮者等の受入。
  - ②長野保護観察所からの緊急的住居確保・自立支援対策事業対象者の受入。
  - ③長野市生活困窮者一時生活支援事業対象者の受入。
- (8) 生活困窮者就労訓練事業を関係機関と連携しながら取り組んだ。
- (9) 新型コロナウイルス感染に対しマニュアルを整備して対策を徹底した。

## 2 生活支援サービス

- (1) コロナ禍における生活  
コロナ禍においては外出（買い物、外食、旅行等）制限、家族との面会制限、イベントの縮小、地域との交流制限等、生活に様々な制約が生じた。この様な状況下で充実し生きがいを感じられる生活になるよう、感染対策を行いながら可能となるサービスを工夫した。
- (2) ケースワーク  
個別支援計画により、身体的・精神的自立を目的として、個々の年齢・生活歴・障害程度・日常生活の状況等を考慮した、よりきめの細かい個別サービスを提供した。
- (3) 作業指導  
労働の尊さと喜びを知り、施設内外への作業参加が自主的に行えることを尊重しつつ労働の価値とその喜びを体得し、自立・勤労精神の育成を図った。
- (4) 教養娯楽  
音楽・運動に親しみ、情操と健康の向上に努め、スポーツ・舞踊・歌・ゲーム等を誕生日会、納涼祭、忘年会を中心とした行事に向け支援した。
- (5) 機能回復、減退防止に対する配慮  
高齢化・重度化に合わせてラジオ体操・歩行訓練を行ったほか、散歩・リハビリ等により機能回復・維持への意欲を高めることに努めた。
- (6) 行事  
年間スケジュールに沿って行事を実施した。
- (7) 自治会活動への支援

生活の質を利用者が自ら高めるために組織された自治会の活動を支援した。

#### (8) 地域移行支援事業

- ① 救護施設居宅生活訓練事業を取り入れ、居宅生活への移行を支援した。
- ② 相談員を配置し、居宅生活訓練者へよりきめの細かいサービス提供に努めたほか、地域との連携強化を進めた。
- ③ 保護施設通所事業を取り入れ、居宅生活訓練修了者への継続的な支援、地域の生活困窮者への相談援助事業を行った。

居宅生活訓練事業の実績

	R3.4月1日	R4.3月31日
男	2名	3名
女	0名	0名
計	2名	3名

保護施設通所事業の実績

通所事業	訪問事業
1名	2名
0名	0名
1名	2名

### 3 衛生管理

- (1) 定期健康診断を行った。
- (2) 施設内外の清潔を保つため清掃・消毒・殺虫駆除等を行った。
- (3) 風邪・コロナウィルス感染症等の予防のため、手洗いとうがいの励行を促すと共に秋にインフルエンザ予防接種を本人又は家族の承諾を得て実施した。
- (4) 食事前の手洗い、手指消毒を指導した。
- (5) 浴槽の衛生管理として次のことを実施した。浴槽清掃を入浴終了後に行った。残留塩素検査を入浴前に行った。
- (6) 受水槽の法定点検・水質検査を年1回行った。
- (7) 新型コロナウイルス感染に対しマニュアルを整備して対策を徹底した。

### 4 防災対策

- (1) 防火計画に基づいて定期的に避難訓練を実施するとともに防火器具・避難経路等の点検を行った。
- (2) 大規模災害想定避難訓練を9月2日に実施した。
- (3) 夜間想定避難訓練を消防署立会いのもと10月20日に実施した。
- (4) 防火設備、消火設備並びに火災報知設備の保守点検を業者に委託し行った。
- (5) 漏電予防検査を業者に依頼し実施した。
- (6) 災害に備えて2日分の水・食糧の備蓄を給食業者に保管させるとともに、施設内でも1日分の水・食糧を備蓄した。
- (7) 長野市と災害時の福祉避難所の協定を結んだことから災害時の協力要請に備えた。

### 5 給食

- (1) 給食業務の外部委託に伴い、委託業者と密接なる連携を図った。また、委託業者とは定期的に打合せ会議を行った。
- (2) 年齢、身体的状況などを考慮して栄養価は目標量を不足しないようにするほか、嗜好調査を実施し利用者それぞれに対応した食事を提供できるよう努力した。
- (3) 食中毒の発生を防止するため関係機関の指導に従い最善の措置を講じた。

### 6 実習生、ボランティア等の受け入れ

新型コロナウイルス感染予防のため実習生やボランティア等外部からの受け入れは行わなかった。

## 参考資料

### ①入所率（令和4年3月31日現在）

定員80名入所率	一割増88名入所率
108.1%	98.3%

### ②利用者の異動

（単位：名）

区分	R3年 4月1日	入 寮（10名）		退 寮（9名）			R4年 3月31日
		自宅	病院・ 他施設	病院・他施設	死亡	自立	
男	54	2	6	3	2	2	55
女	31	0	2	0	2	0	31
計	85	2	8	3	4	2	86

### ③自治会・意見箱からの意見要望件数（延べ件数）

同僚に関する こと	生活に関する こと	職員に関する こと	食事に関する こと	行事に関する こと	衛生に関する こと	医療に関する こと	施設整備・備品 に関すること
99件	26件	12件	8件	7件	6件	4件	3件

※全体会議は新型コロナウイルス感染予防のため開催しなかった。

### ④事故の件数

転倒	誤薬・落薬 等	対人トラ ブル	誤嚥・ むせ込み	切り傷・ 擦傷	無断外出	その他	計
41件	33件	7件	6件	4件	1件	17件	109件

- ・上記表は、施設内全事故件数 109件中主だったものである。
- ・月別の詳細件数については「R3年度月別件数」を参照のこと。
- ・新型コロナで外出自体が自粛傾向にあったため前年同様事故件数は数年前と比較すると減少傾向。
- ・施設内事故で最も多かったのは転倒、それについては変化なし。次いで誤薬・落薬が2位。
- ・転倒に関しては利用者の状態の悪化や歩行器や車椅子を使用せずの動き出しによるものが多い。
- ・落薬に関しては利用者の能力的な部分と職員の不注意によるもの。
- ・対人トラブルは前年度比較で減少した。
- ・その他の内容としては異物混入や落し物、火災報知器の誤作動等が含まれる。
- ・平日の朝ミーティングにより可能なかぎり迅速にリスクを減らすべく取り組みを続けている。
- ・データの蓄積と検証を継続し今後も事故予防・対策強化に努めていく。

### ⑤生活困窮者支援事業「ゆめのは」実績（令和3年4月～令和4年3月）

	支 援 内 容 (件数)							計
	生活 相談	通院 同行	買物 同行	手帳等 各種手続	家事 支援	食料 支援	その他 移動支援	
男	7	9	10	4	4	10	7	51
女	7	14	9	6	4	5	14	59
計	14	23	19	10	8	15	21	110

相談件数：35件 支援件数：40件 前年度より支援継続：18件

支援終了件数：18件（終了理由 介護サービスに移行：8件 障害サービスに移行：4件  
 利用者死亡：3件 支援希望終了：3件） 次年度へ支援継続：21件  
 年齢：22歳～95歳  
 依頼元：地区包括支援センター：18件、居宅介護支援事業所：10件、市保健センター6件  
 長野市生活支援課：3件、長野中央病院・地域連携室：1件、長野県社協：2件  
 保護観察所：1件

⑥ホームレス等の受け入れ（自立準備ホーム 長野市生活困窮者支援事業）

前年度からの継続 (R3年4月1日)	入 寮 (入所時依頼関係機関)				退 寮 (退所先)		次年度へ 継続 (R4年 4月1日)
	福祉事務所	市地域包括 ケア	県中央児童 相談所	保護観察所	市内住居	県外住居	
0名	1名	1名	1名	1名	2名	1名	1名

※本年度は新型コロナ対策として、地域在宅から本体入所前観察で使用している場合と自立準備ホーム利用中は受け入れを制限させていただいた。